

# Salon

Vol.90 2014年5月 新緑号



ホール3F壁面 ポール・ゴアマン作「裸婦とヴァイオリン」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — パトリツィア・コパチンスカヤ
- 03 Phoenix Presents — チケット発売情報
- 06 Pick Up — 大阪市音楽団
- 07 Essay de say — 「二人の師—音楽と出会い」 戸田弥生



# 「無慈悲な天使」と「心優しい悪魔」が同居 ヴァイオリニスト パトリツィア・コパチンスカヤさん

このヴァイオリニストは、一味も二味も違う。パトリツィア・コパチンスカヤ。黒海の西北に位置する東欧の田園国家、モルドヴァの出身。「村の楽師」の両親のもとでヴァイオリンを始め、長じてウィーンやスイスのベルンのアカデミーで研さんした変り種だ。彼女の演奏はしばしばテンポが変わる。通常は繊細優雅に奏でられることが多いパッセージも、時には鋭い攻撃力をはらんだ閃光に変容する。舞台はいつも即興的で靈感的。スリルに満ちたゲームのようだ。楽曲の基になったフォークロアや民族音楽に、幼い頃から携わっていた経験はもちろんだ。一方で、作曲家としてのキャリアも積み、音符一つひとつの背景を読み解く知的なセンス、そして演奏家が果たすべき役割についての、情熱的な意志をも備えている。文字通り、「知情意」が均衡する、実に魅力的なアーティスト。打ち返されてきたメールには、日本の禅芸術に関するユニークな洞察まで含まれていた。

(あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール 谷本 裕)

Patricia Kopatchinskaja

1977年、モルドヴァ・ソヴィエト社会主義共和国生まれ。同国は黒海の北西、ウクライナとルーマニアに挟まれた田園国家。ソ連崩壊で現在はモルドヴァ共和国。両親共に音楽家の家庭で育ち、のち作曲とヴァイオリンをウィーンとベルンで学ぶ。2000年メキシコのシェリング国際コンクールに優勝、02年「クレディ・スイス・グループ・ヤング・アーティスト賞」、04年ヨーロッパ放送連盟「New Talent - SPP Award」、06年ドイツ放送局の「フェルダグ賞」を受賞。ソリストとしてウィーンフィル、ウィーン響、ベルリン・ドイツ響、シュトゥットガルト放送響、フィルハーモニア管、パリ・シャンゼリゼ管、N響ほかの楽団と、また指揮者ではヴラディミール・フェドセーエフ、フィリップ・ヘレヴェッヘ、マリス・ヤンソンス、パーヴォ・ヤルヴィ、ロジャー・ノリントン、スタニスラフ・スクロヴァチェフスキらと共演している。ニューヨークのカーネギー・リンカーン・センター、ロンドンのウィグモアやロイヤル・フェスティヴァル、ベルリン・フィルハーモニー、ウィーン楽友協会、ザルツブルク・モーツァルテウム、アムステルダム・コンセルトヘボウなど世界の著名ホールに登場。またルツェルン、グシュタード・メニューイン、ザルツブルク、ロッケンハウス、あるいはウィーン芸術週間といった主要な音楽祭に招かれている。現代作品の演奏に積極的で、彼女自身、作曲も手掛けている。ファジル・サイ、オットー・ツィーカンら多くの作曲家が彼女にヴァイオリン協奏曲を作曲し、彼女が初演。ソロで、またバリー・ガイ、シャルロット・ハグらとの共演で、即興演奏も手掛けている。CDではオットー・ツィーカン、ゲラルド・レシュとゲルト・キュールらによる現代作品を録音。ファジル・サイとのデュオ・リサイタルCD「スーパー・デュオ!」、08年2月にルツェルンで初演・ライブ録音された「ファジル・サイ：ハーレムの千一夜」、09年に「ベートーヴェン：ヴァイオリン協奏曲」(ヘレヴェッヘ指揮シャンゼリゼ管)がエイベックス・クラシックスからリリース。使用楽器は1834年製プレッセンダ。スイスのNGO団体「Terre des Hommes」の親善大使として故国の子どもを支援している。

「パトリツィア・コパチンスカヤ ヴァイオリンリサイタル」は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール音楽アドバイザーの伊東信宏さん(大阪大学教授=音楽学)プロデュース公演。2014年6月11日(水)午後7時開演。開演前の午後6時45分から、伊東さんのプレトークがある。ピアノは、コンスタンチン・リフシツ。入場料5,000円(指定席)、友の会4,500円。学生1,500円(限定数。ザ・フェニックスホールチケットセンターのみお取り扱い)。チケットのお求め、お問い合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時~17時)。

[プログラム]

C・P・E・バッハ：幻想曲 嬰へ短調 Wq80

シマノフスキ：神話—3つの詩 作品30

シェーンベルク：幻想曲 作品47

プロコフィエフ：

ヴァイオリン・ソナタ 第1番 へ短調 作品80



# 「瞬間の感性」に身委ねる

Patricia  
Kopatchinskaja

あなたの弾くチャイコフスキーのヴァイオリン協奏曲を2008年冬、大阪で聴いたことがあります。民俗音楽(フォークロア)の奔放さを強く思い起こさせるものでした。チャイコフスキーを演奏する時はいつも、民俗的な要素を強調しますか。他の作品を演奏する際も、そうなのでしょうか。

—あの曲は第3楽章に、ロシアの伝統的なダンス「トレパーク」(\*1)が出てきます。演奏家は心の中で「村の市場」の音を聴き、それを見、薫りを感じていなければなりません。情熱的で陽気、大地に根ざしたように骨太に演奏すべきです。民俗音楽の影響を受けているのは、あの作品に限ったことではありません。あらゆるクラシック音楽に見られます。例えば、ハイドンやベートーヴェン、ブラームス、リストやバルトークがそうです。ドビュッシーやリゲティは東洋音楽の要素を用いてさえいます。民俗音楽のミュージシャンの多くは楽譜が読めず、暗譜で演奏しますから、演奏がとつても自由。クラシック音楽に民俗音楽の要素が出てくる場面では、彼らのように演奏すべきです。

確かに聞き慣れた演奏とは違っていました。テンポやリズムが頻繁に変わり、音色の変化も豊か。生き生きとしていました。あなたにとって演奏(Playing)はどんな営みですか。

—「遊びPlaying」ですね(\*2)。本当にそう考えているんです。子どもが、石とか木切れなんかで、いつもやっていること。並び替えて組み合わせたり、心を通わせ、お人形さん遊びにしたり…。他の人の演奏を聴いて、残念に思うことがあります。それは、子どもには自然に備わっている、あの遊び感覚が失われてしまっている時。私たちは、例えばチャイコフスキーやブラームスのヴァイオリン協奏曲をガッシリと揺るぎない、「記念碑的な建造物」とは思い込まない方が良いでしょう。むしろ、演奏の度にフレキシブルに新しく、創られ直されたように奏でるべきです。そのためには作品を構成する音楽素材と、文字通り「遊び回る」ことができなければなりません。

あなたはつまり、ヴァイオリンを演奏する際に、感性や直感を重視するタイプなのですか。

—私は演奏家であり、同時に作曲家でもある。このことが、とても重要です。作曲家は、「憧れ」とか「思想」とか「想像力」などを起点に活動します。自分の中のイメージーションを、楽譜として書き留めるわけです。でも、いま使われている楽譜の書法は、もう千年も前にイタリアで発明された不完全なもの。微かな彩、ニュアンスや抑揚、音の出し方といった込み入った要素は、盛り込み切れない。演奏家が楽譜を、書かれている通りに演奏しなくてはならないのはもちろんです。でも、それだけでは決して十分ではない。作曲家が最初、抱いていた空想やイメージーションを見つけ出し、蘇らせる。再創造しなくてはならないからです。そのためには

音符一つひとつの意味を解き明かし、理解しなければなりません。例えば同じ作曲家の別の作品を調べる。手紙や評伝、同時代の批評を読む。彼の先生の音楽も当たってみる。また、「歴史的録音」とされている演奏を聴いてみる。こんなあらゆるリサーチが要ります。一方で舞台では、こうした事柄から自分を解き放って、「瞬間の感性」に身を委ねることも大切です。

自由奔放な演奏に触れた者としては、仰ることは納得できますが、クラシック音楽の演奏家は、そうではない方も少なくないです。



—「禅の芸術」を引いて説明してみましようか。禅芸術には、音楽の解釈や演奏にも有用な、重要な示唆が含まれています。例えば、禅僧が描く素朴な円相(\*3)。見る人によっては、退屈な円環にしかみえないかもしれない。でも、よく見れば、それ以上のものが表れてくる。彼らは表現を、故意に「不完全」な状態に留めています。フキンセイ(不均整)でカンソ(簡素)、シゼン(自然)でユウゲン(幽玄)。そしてダツツク(脱俗)的。「侘び寂び」に連なる、こうした、禅の様々な芸術原理を、私たち演奏家も学ぶべきです。音楽家が、一つの音符を奏でる際は、単にのっぺりした響きを超える何かでなければなりません。音楽作品全体についても、きっとそうでしょう。芸術は、たった一人の人間の意思だけで形づくられるものではない。むしろそれは、芸術そのものから湧きあがってくるものです。芸術家は単に、機械のような「完璧」な表現を目指すのではなく、芸術が自ずと生成してくるよう努めることが大切な役割です。とても個人的なものでありながら、同時に宇宙全体を示す。そんな表現がもたらされた時こそ、音楽は本当の姿を現すのではないのでしょうか。

今回のプログラムについて(左頁下参照)。

—カール・フィリップ・エマヌエル・バッハもシェーンベルクも晩年、幻想曲を作曲しました。前者は父ヨハン・セバスチアンと自分の同時代の音楽から材料を幾つか使っています。それも完全に自由な、

驚くようなやり方で再構成しているのです。まるでピカソの絵のような印象です。鼻はこっち、一つの耳はあっち、もう一つの耳は別の所に。エマヌエル・バッハは、先にピアノのパートを作曲し、後からヴァイオリンパートを足しました。この音楽はどことなく、20世紀における伝統的な音楽様式の崩壊を早々と預言しているように感じられます。一方、シェーンベルクが1949年に作曲した幻想曲では、その「崩壊」は明白。彼は、エマヌエル・バッハとは逆にヴァイオリンパートを最初に作り、のちピアノパートを添えました。シェーンベルクの曲も、ピカソを強く思い起こさせます。シマノフスキは「神話」を、時代的にはちょうど2人の中間点ごろ、1915年に書きました。斬新な響きや色彩感を表そうと試みています。

この公演のメインはプロコフィエフの第1ソナタですね。

—1938年から46年にかけて書かれました。世界が戦争におびえた時代の、陰鬱な作品。冒頭のヴァイオリンの音が、実に恐ろしい。私はこれを弾く度、ソヴィエトの秘密警察が夜、市民を強制収容所(\*4)に連行するため、夜半、民家のドアを叩くさまを連想してしまいます。他の箇所では、作曲家自身が演奏法の指示を残してもいます。第1楽章と、最終楽章の終結部に現れる、微かなヴァイオリンの音階進行。これは「墓場を吹き抜ける風のように」といった具合です。また、最終楽章の或る一節についてプロコフィエフは、初演のリハーサルでピアニストに、こう求めました。「聴衆が座席から飛び上がるような、大きな音で」。ヴァイオリンをかき消してしまうほどの、「気が狂ったか」と思わせる強烈な強さです。

そのパートを受け持つピアニスト、コンスタンチン・リフシツツについて。

—コースチャと初めて共演したのは、もう10年以上も前。彼は、水晶を思わせる明晰さで演奏する、最上級の名手です。音楽に向き合う時は「究極」ともいえるほどの没頭をしてみせ、それでいて楽譜にとっても忠実。そんな演奏が私は大好きです。

取材協力:KAJIMOTO

\*1 trepak 速い4分の2拍子で踊る、コサックの踊り。  
\*2 play 英語単語としては「演奏する」という意味と同時に、「遊ぶ」という意味がある。ドイツ語やフランス語、イタリア語にも同様の言葉がある。  
\*3 円相 禅宗の書画の一つ。丸い円環を、一筆書きで書く。悟りや真理の境地、さらには宇宙全体を表すと言われている。  
\*4 強制収容所 ソヴィエトでは1920年代のスターリン政権以降、反体制運動家らを収容するために多数の収容所が建設された。収容された人々は過酷な強制労働に従事させられた。国家としてのインフラ整備のための労働力としても利用されたとの指摘がある。ノーベル賞作家ソルジェニーツィンの『収容所群島』に詳しい。



5月23日(金)  
10:00 受付開始  
ザフェニックスホール  
友の会優先予約

5月26日(月)  
10:00 受付開始  
イーフェニックス  
E-PHX優先予約

5月27日(火)  
10:00  
一般発売

インターネット予約、ご来店による  
お申込みは5月28日(水)10:00から!

注目アーティストシリーズ61

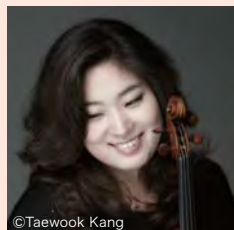
2014年9月30日(火)

限りなく、ロマンティック。ドイツ拠点の精鋭が描く、ブラームスの情念。  
今井信子 presents キム・スーヤン ヴァイオリンリサイタル

19:00開演 指定席  
一般 ¥3,000(友の会価格 ¥2,700)  
学生 ¥1,000(限定数)

出演 キム・スーヤン(ヴァイオリン) 児嶋一江(ピアノ)  
曲目 ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ 第1番 ト長調「雨の歌」作品78  
ヴァイオリン・ソナタ 第2番 イ長調 作品100 ヴァイオリン・ソナタ 第3番 二短調 作品108

キム・スーヤンさんは知りあってもう4、5年になるヴァイオリニストです。彼女の演奏を初めて聴いたときに大変印象に残ったのが、ベートーヴェンの有名な弦楽四重奏曲作品127のなかでも、特に息の長い傑作として知られる第2楽章の演奏でした。あの若さで曲の輪郭を捉え、カルテットを偉大なオーソリティを持ってリードして行く才能に、年齢を超越したものを感じました。その後彼女はメキメキと実力を発揮し、ハノーファーの国際ヴァイオリン・コンクールで優勝しています。今回は彼女が現在取り組んでいるというブラームスのヴァイオリン・ソナタを披露していただきます。ピアノは関西を拠点に幅広い活躍を展開されている児嶋一江さんです。



©Taewook Kang

キム・スーヤン(Suyeon Kim/ヴァイオリン) ドイツに拠点を置く、国際的な韓国人ヴァイオリニスト。1987年ミュンスター生まれ。5歳でヴァイオリンを始め、4年後にデトモルト音楽大学ミュンスター校特別年少学生としてヘルゲ・スラットに師事。2008年に同校卒業。ミュンヘン音楽大学でアナ・チュマチェンコに学び、10年に修士号取得。12年夏までクロンベルク・アカデミーで研さんを積んだ。03年独アウクスブルクのレオポルト・モーツァルト国際コンクールで優勝、併せて聴衆賞と現代音楽最優秀演奏賞を受ける。06年、ハノーファーのヨゼフ・ヨアヒム国際コンクールで優勝。09年にはベルギーのエリザベト王妃国際コンクールで4位入賞。ソリストとしてクルト・マズア、エリアフ・インバル、チョン・ミュンフン、ペーター・ルジツカ、ワルター・ヴェラーといった国際的指揮者と共演。ドイツ・カンマーフィル、コペンハーゲン・フィル、ストラスブル・フィル、ソウル響などに招かれている。ドイツ・グラモフォンのアーティストとしてモーツァルトのソナタ集(10年)とパッハの無伴奏ヴァイオリンのためのソナタとパルティータ(11年)をリリース。ベートーヴェンの協奏曲が14年7月にリリースの予定。ライナー・キュッヒル、イダ・ヘンデル、エリザベス・ウォルフフィッシュらのマスタークラスを受講。05・06年には小澤征爾に招かれ、スイスの国際音楽アカデミーに参加。使用楽器はポーティゴン・アーゲー銀行提供の1684年製ストラディヴァリウス「エクスクロアル」。



児嶋一江(こじま・かずえ/ピアノ) 京都市立堀川高等学校音楽科卒業。東京藝術大学・同大学院を経て、国際ロータリー財団奨学生として国立ミュンヘン音楽大学留学、同マスターコース修了。金澤孝次郎、島崎清、井口秋子、小林仁、クラウス・シルデの各氏らに師事。学生音楽コンクール西日本1位。日本音楽コンクール、ジュネーブ国際音楽コンクール入賞。全ドイツ音楽コンクール優勝。海外派遣コンクール河合賞受賞。東京、大阪、ベルリン、ハンブルクなどでリサイタルを行うほか、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、読売日本交響楽団、京都市交響楽団などと協演。また、カール・ズスケ、ラファエル・オレグ、小栗まゆ絵(Vn)、クリストフ・ヘンケル、ヴォルフガング・ベツチャー(Vc)、ハンス・ペーター・シュー(Tp)、ラドヴァン・ヴラトコヴィッチ(Hr)など、著名なソリストとの共演では、共演者から圧倒的な音楽的信頼を寄せられている。放送出演、レコーディングなども多く、ソロ、アンサンブルで幅広い活躍を続けている。東京藝術大学講師を経て、現在、相愛大学音楽学部教授。

ホール主催・共催・協賛・協力公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

http://phoenixhall.jp/

チケットセンターのページからお申込みください

直接のご来店による  
お申込み

- ザ・フェニックスホール友の会優先予約
  - ・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
  - ・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
  - ・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申し付けください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。

- E-PHX(イーフェニックス)優先予約
  - ・E-PHX(イーフェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
  - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
  - ・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話での登録はできません。

- 一般発売
  - ・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
  - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

- インターネット予約(主催公演のみ)
  - ・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
  - ・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
  - ・ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
  - ・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしておりません。
  - ・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物5階、エレベーターを降りて廊下右手です。



チケットお申込み後のお受け渡し方法 下記①または②のどちらかとなります。

- ①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。
- ②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律400円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール



■フェニックス・エヴォリューションシリーズ70

主催 Recital Niklaus Kost, Bariton &amp; Satoko Kato, Piano

## 2014年10月8日(水) ドイツ歌曲で綴る「ある男の運命と愛の物語」

19:00開演 自由席

一般 ¥3,500(友の会価格 ¥3,150)

学生 ¥2,500

出演 ニクラウス・コスト(バリトン)

加藤哲子(ピアノ)

田中郷子(ソプラノ・特別共演)

曲目 プログラム「ある男の運命と愛の物語」

第1章 若き者の運命 R・シューマン:5つの歌曲 作品40(アンデルセン詩、シャミッソー訳/詩)

第2章 詩人の恋 D・フエター:連作歌曲「schへのオマージュ-苦い甘さ」(ハイネ詩「歌の本」より)

第3章 禁断の愛 O・シェック、H・ヴォルフ:「ペレグリーナI、II、III、IV、V」(メーリケ詩)

第4章 死にとりつかれた男 F・マルタン:イェーダーマンからの6つのモノローグ(ホフマンスタール戯曲より)

第5章 純愛 W・ギーガー:良寛と貞心尼の8つの和歌「めぐりあい」

この企画は今年が日本・スイス国交樹立150周年にあたることちなみ、スイス在住のピアニスト加藤哲子がスイスの音楽家ニクラウス・コスト(バリトン)とワルター・ギーガー(作曲)と共同で企画したドイツ歌曲コンサートで、両国の音楽家によるクリエイティブな音空間を提供致します。「ある男の運命と愛」をテーマに一人の男のさまざまな人物像が浮かび上がるようにプログラムを短編小説風に5章から構成し、一連のドラマに仕上げます。主にスイスの現代作曲家の歌曲をとりあげ、シューマンとヴォルフの歌曲も加わります。中でも目玉は、本プログラムのために作曲された良寛と貞心尼の8つの和歌「めぐりあい」です。良寛は70歳で30歳の貞心尼に出会い、和歌を交換し続け、良寛の死まで友情が続きました。スイス人作曲家ワルター・ギーガーはこれらの和歌に深い人間愛を見出し、大変感銘を受け、二重唱になる連作歌曲を書きました。本作品は田中郷子(ソプラノ)が特別共演として加わり、ニクラウス・コストと日本語とドイツ語の両言語で二重唱を奏でます。本プログラムは劇的な運命の中でも希望を持って生きていく人間像や人間愛を伝えます。



ニクラウス・コスト(Niklaus Kost/バリトン) チューリッヒ出身。2007年アムステルダム音楽院を首席で卒業。同年ミグロ文化プロセス奨学金(スイス)を授与され、オランダ国立オペラアカデミーとレジデンス・アーティストプログラムで修士課程修了。ブリティッシュ作曲「真夏の夢」テーズス、「フィガロの結婚」アントーニオ、「カルメン」エスカミリーヨ、プーランク作曲「カルメル派修道女の対話」フォース伯爵、グルック作曲「オーリードのイフィジエニ」アガメムノンの各役で出演。2008、09年オペラ・トリオンフォに所属。オネゲル作曲「ボソル王の冒険」メタイヤ、モンサルヴァーチェ作曲「長靴を履いた猫」オルゴの各役で出演。2010年、11年ネザーランド国立オペラ(アムステルダム)で、ジンマン作曲「兵士たち」準士官、グラス作曲「ヴェニスの魔法使い」巨人役。2011年、12年フエター作曲「鱈のスタンリー」でタイトルロールを歌う(スイス国営ラジオ、国営テレビ協賛でCD化)。2013年サンモリッツ・オペラとバーゼル国立歌劇場で「ドン・ジョヴァンニ」マゼット役で出演。オペラ以外にも歌曲リサイタル、オーケストラ、合唱のソリストとしてヨーロッパ各地で活躍している。



加藤哲子(かとう・さとこ/ピアノ) 神戸出身。現在はリートベグライター(歌曲伴奏者)、コレペティートルとしてヨーロッパを拠点に活動。大阪音楽大学、アムステルダム音楽院ピアノ科卒業。2004年、07年野村国際文化財団より奨学金を得てチューリッヒ芸術大学でハルトムート・ヘルに師事し、コンサートディプロマと修士課程を最優秀、最高得点で修了。チューリッヒ芸術大学、国立カールスルーエ音楽大学声楽教員採用試験、シオン国際声楽マスタークラスで公式伴奏員を務める。ディートリッヒ・フィッシャー=ディースカウをはじめ著名な声楽家、伴奏者のマスタークラスを受講し、現在のリートベグライターになる基盤を築く。2007年パリ・ブーランジェ・リートデュオコンクールでフランス国営ラジオにファイナルリサイタルが放送され、パートナーの現代曲賞受賞。ヨーロッパで精力的に演奏活動を展開し、近年は日本でもコンサートツアーを行っている。2013年『ウッラ・ヴェストヴィーク&加藤哲子 日本コンサートツアー』の東京公演は音楽評論家の濱田滋郎氏に絶賛され、『音楽の友』特集2013年コンサート・ベストテンでベストテンに選ばれる。2011年より定期的に声楽家とピアニストのための講習会(リートクラス及びコレペティション)を関西とスイスで行っている。www.satokokato.ch



田中郷子(たなか・さとこ/ソプラノ) <特別共演> 兵庫県立西宮高校音楽科を経て、大阪音楽大学卒業。神戸大学大学院修了。2005年スペイン・パウカザルス音楽堂他のソロリサイタル(日本EU文化年事業)以降、コンサート歌手として活動。2010年国際交流基金の助成を受けメルシ国際音楽祭(トルコ)に出演。平成22年度ひょうごアーティストサロン賞受賞。国立リヴィウオーケストラ(ウクライナ)、国立キエフオーケストラ(大阪)のベートーヴェン『第九』、モーツァルト『レクイエム』(東京)のソリストを務めるほか「トスカ」「カルメン」「椿姫」(コンサート形式ハイライト)の各タイトルロールやバロックアンサンブルとの共演、国歌独唱、新作初演など多岐にわたる活動を展開。チューリッヒ、アンカラ、国内各地でソロリサイタルを行う。2005年より地球音楽隊『フレンドシップ』代表としてラオス、カンボジアでの音楽支援活動を定期的に行い、演奏と支援活動が高く評価され、情報文化省より感謝状を授与される。兵庫県立西宮高校音楽科講師。エリーゼ音楽アカデミー講師。

フェニックス・エヴォリューション・シリーズは、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社の芸術文化支援活動の一つです。

同社が運営するあいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール(大阪・梅田)での公演企画を公募、審査で選ばれた方にホールと付帯設備を無料で貸与致します。

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛・協力公演のご案内 ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

発売中

協賛  
公演CD『Prélude』発売記念  
井上麻子×藤井快哉 DUOリサイタル

主催 井上麻子×藤井快哉DUOリサイタル実行委員会

一般前売¥3,000(友の会価格¥2,700)

一般当日¥3,500(友の会価格¥3,150)

学生前売¥2,500

学生当日¥3,000

2014年6月4日(水) 19:00開演 自由席

出演 井上麻子(サクソフォン)  
藤井快哉(ピアノ)曲目 サン=サーンス:ロマンズ作品36、作品67  
ドビュッシー:ベルガマスク組曲  
デザンクロ:プレリュード、カデンツとフィナーレ  
フランク:ソナタ 長調

第7回佐治敏三賞(サントリー芸術財団)の受賞で一躍脚光を浴びた井上×藤井DUOが、待望のCD発売を記念してリサイタルを開催する。収録曲の中からフランクのソナタ、サン=サーンスのロマンズを取り上げるほか、ドビュッシーのベルガマスク組曲、デザンクロのオリジナル作品をプログラミング。常にDUOとしての音楽性と可能性を求めて共演を重ねてきた二人が、さらに際立つアンサンブルと、自然かつ繊細な表現で、サクソフォンとピアノが織り成す色彩豊かな世界へと誘う。



発売中

協賛  
公演

## カスパラス・ウインスカス ピアノリサイタル

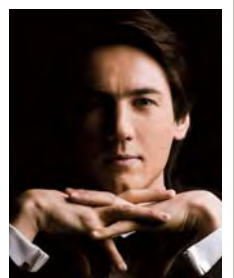
主催 プロ アルテ ムジケ

2014年6月22日(日) 14:00開演 指定席 一般前売・当日¥5,000(友の会価格¥4,500) 学生¥3,000

7/3公演(P5参照)との  
セット券¥8,000曲目 ブラムス:4つのバラード 作品10  
ショパン:12の練習曲 作品25  
ドビュッシー:映像 第2集より「荒れた寺にかかる月」  
前奏曲集 第2巻より「オンディーヌ」  
映像 第1集より「水の反映」  
月の光  
ラフマニノフ:ピアノソナタ 第2番 変口短調 作品36

出演 カスパラス・ウインスカス(ピアノ)

リトアニアの輝ける才能!カーネギー・ホール・デビューで、その類希なる才能を見いだされ、華々しい国際的キャリアをスタート!「これほどまでに完成され精神的に成熟した演奏は、偉大なピアニスト・音楽家として必要な資質を全て持ち合わせている!」と絶賛を浴びている。ベルリン・フィルハーモニー・ライブはDVD化、ロンドンのウイグモア・ホール・デビューで、聴衆を感嘆の渦に巻き込み世界への扉を開いた新星、待望の初来日!



あいおいニッセイ同和損保・ザ・フェニックスホール協賛・協力公演のご案内 ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

発売中

**協賛公演** **ファン・カルロス・ロドリゲス ピアノリサイタル** 主催 プロ アルテ ムジケ  
 2014年7月3日(木) 19:00開演 指定席 一般前売・当日¥5,000(友の会価格¥4,500) 学生¥3,000 6/22公演(P4参照)とのセット券¥8,000

曲目 アルベニス:組曲「イベリア」よりマラガ  
 ファリャ:カンシオン、小人の行列、  
 セレナータ、演奏会用アレグロ  
 アルベニス:組曲「イベリア」よりエル・アルバイシン  
 ファリャ:4つのスペイン小品  
 :ドビュッシーの墓碑名のための讃歌  
 :ファンタジア・ベテッカ

出演 ファン・カルロス・ロドリゲス(ピアノ)  
 クラウディオ・アラウの伝統を今に引き継ぐ名手!表情豊かに魂の神髄をとらえ、新鮮でみずみずしく色彩豊かで豊潤な音楽を作り出す。「恐ろしいほど優れたピアニスト!」と各地で絶賛され、バルセロナ、サン・セバスティアンなど5つの国際コンクールを制覇。シャンドス等から次々とCDをリリース!!待望の初来日ツアーを、スペイン生まれのロドリゲスが選んだアルベニスとファリャのオール・スペイン・プログラムで臨む!



発売中

**協賛公演** **田崎悦子ピアノリサイタル「三大作曲家の遺言」全3シリーズ 第2回** 主催 Joy of Music & Co.  
 2014年7月13日(日) 13:30開演 自由席  
 一般前売¥4,000(友の会価格¥3,600) 一般当日¥4,500(友の会価格¥4,050) 学生¥2,500

出演 田崎悦子(ピアノ)  
 曲目 プラームス:6つの小品 作品118  
 ベートーヴェン:  
 ピアノソナタ 第31番 変イ長調 作品110  
 シューベルト:  
 ピアノソナタ 第20番 イ長調 遺作D.959

昨年、ニューヨークデビュー40周年記念リサイタルを終え、世界の大舞台で活躍を続けてきたピアニスト田崎悦子。今回は、「三大作曲家の遺言」と名付けられ、ピアニスト人生の集大成として行われるリサイタル(全3シリーズ)の第2回目。プラームス、ベートーヴェン、シューベルトの最晩年のピアノ作品ばかりを集めた壮大なプログラム。この3人の偉大な作曲家たちが命を引き換えに残した作品に、演奏者がその全人生を捧げる渾身のリサイタル。決して聴き逃しなく!



発売中

**協力公演** **夏祭なにわなくとも室内楽Vol.7「夏でもボルシチ」** 主催 大阪アーティスト協会  
 2014年7月19日(土)・26日(土) いずれも17:00開演 自由席 一般前売¥4,000(友の会価格¥3,600) 一般当日¥4,500(友の会価格¥4,050) 2公演セット券¥7,000

構成監修 網干毅(音楽評論家)  
 出演 松村英臣、松村圭祐、加納くみ子、木下たまみ、笹村直子、内田裕子(以上Pf) 武村美穂子、安藤史子(以上Fl) 辻本剛志(Sax) 佐々木倫子(M-Sop)  
 ギョルギ・パプアゼ、田辺良子、田野倉雅秋(以上Vn) 元井あづさ、大町剛、近藤浩志(以上Vc) 他  
 曲目 ラフマニノフ:ヴォカリーズ、組曲第2番、悲しみの三重奏曲第1番 プロコフィエフ:フルートとピアノのためのソナタ  
 カプーステン:三重奏曲 作品86 ストラヴィンスキー:イタリア組曲 チャイコフスキー:ピアノ三重奏曲「偉大な芸術家の思い出に」

発売中

**協賛公演** **不滅のタブラトゥーラ 結団30周年記念大演奏会** 主催 ダウランド アンド カンパニー  
 2014年7月23日(水) 19:00開演 指定席  
 一般前売¥4,800(友の会価格¥4,320) 一般当日¥5,200(友の会価格¥4,680) 学生¥3,000

出演 古楽器バンド タブラトゥーラ:つのだたかし(ラウター/ウード)、  
 田崎瑞博(フィドル)、江崎浩司(リコーダー/ショーム)、  
 近藤郁夫(パーカッション)、山崎まさし(ビウエラ)  
 曲目 つのだたかし:モロッコかぶれ、新しい自転車  
 江崎浩司:トロキルス 田崎瑞博:夜の蟹、タルタリア  
 山崎まさし:コンパス 近藤郁夫:カレリア  
 16世紀スペイン:レセルカーダ 他

タブラトゥーラは1984年、古楽コンサートのイメージをあっさり破って衝撃デビューした楽しい古楽器バンド。ヨーロッパの中世・ルネサンスの舞曲から出発・展開し、今やプログラムにはメンバオリジナル曲の摩訶不思議なタイトルが並ぶ。古楽器の達人たちが聴かせるオンリーワンの音楽世界。手拍子、BRAVO!が飛び交い、踊り出す客席!!結成30年のタブラトゥーラ・ゴールドエンエイジを、泣いて笑って踊って現場で満喫してください。



発売中

**協賛公演** **クアルテット・エクスプローチェ Quartet Explorce デビュー!!** 主催 Quartet Explorceの会  
 2014年8月6日(水) 19:00開演 自由席  
 一般前売¥2,500(友の会価格¥2,250) 一般当日¥3,000(友の会価格¥2,700) 学生前売¥1,500 学生当日¥2,000

出演 辻本玲、市寛也、森山涼介、高木慶太(以上チェロ)  
 曲目 ドビュッシー:月の光  
 チャイコフスキー:アンダンテ・カンタービレ、  
 ロココの主題による変奏曲 長調 作品33  
 (ソロ:辻本)  
 ピアソラ:リベルタンゴ  
 J・S・バッハ:シャコンヌ  
 (無伴奏ヴァイオリン パルティータ第2番から) 他

2013年末、大学時代から気心の知れた4人で結成。「Explorce」は造語で、explode(爆発)、explore(探検)、ローチェ(celloをもじった業界用語)の3つが合わさっています。同じ楽器だからこそその調和、若者の溢れる情熱のぶつかり合いにご期待下さい。心地よいクラシックからサウンドオブミュージック、最後はタンゴの革命児ピアソラ!普段はオケをバックにしたチャイコフスキーの「ロココ」の主題による変奏曲、を辻本玲がソロ、他3人でオケパートを演奏するという、なかなか聴くことのできない曲もあり、盛り沢山のコンサートです。燃え上がる四本のチェロに乞うご期待!



6/2(月)発売

**協賛公演** **瀬尾和紀(フルート)×パク・ジョンファ(ピアノ)デュオ・リサイタル** 主催 音楽企画・各種演奏家派遣 <永澤学事務所>  
 2014年10月31日(金) 19:00開演 自由席  
 一般前売¥4,000(友の会価格¥3,600) 一般当日¥4,500(友の会価格¥4,050) 学生(25歳以下/生年確認要) ¥2,000

出演 瀬尾和紀(フルート)、パク・ジョンファ(ピアノ)  
 曲目 J・S・バッハ:シャコンヌ  
 ベルト:フラトレス  
 プロコフィエフ:フルートソナタ 二長調 作品94  
 ベートーヴェン:ピアノソナタ 第28番 変イ長調 作品101  
 フランク:ピアノとフルートのためのソナタ 長調

ランバル、ニールセン、ジュネーブなどの国際コンクール入賞を皮切りに、ソリストとして活動を続けるフルーティスト・瀬尾和紀が、盟友パク・ジョンファと共に送り出す渾身のデュオ・リサイタル。2人の希有な音楽家が紡ぎ出す珠玉の演奏をお楽しみ下さい。





## 4月に民営化、8月のフェニックス「ファミリーコンサート」に出演する 大阪市音楽団の楽団長 延原 弘明さん

「来るべき時が来た。」。2014年4月3日午前10時半。大阪・南港、アジア太平洋トレードセンター内の大阪市音楽団新練習場。挨拶に立った延原弘明楽団長は、集まった市民に語り始めた。1923年(大正12年)創立の日本最古の交響吹奏楽団「市音」は、大阪市の行政改革により同月、民営化された。「自立と挑戦」を掲げ開いた初の公開リハーサルで、「新生・市音」は新たな船出を宣言した。8月3日(日)にはフェニックス主催のファミリー公演への出演が決まっている。舵取り役・延原楽団長に話を聞いた。

### 「同志の知恵」で活路開拓

#### 「攻め」の運営期す

私が入団した当時の団員数は約50人。それがここ数年、30人に減っていました。「少数精鋭化」は市の財政事情によります。10年ほど前から採用凍結し、楽器によってはパートが欠けたり、公演でもエキストラを入れるので、独自の音色づくりが難しくなっていました。民営化を機に、新メンバーを9人入れ、35人で再スタートを切りました。これまでは市職員。格安の出演料で出張公演を重ねてきました。今後は、そうはいきません。市外の営業強化はもちろん、従来は禁じられていた企業との連携・協働や、異なる芸術文化との共演などに取り組んでいきたい。2回だった定期演奏会も3回に増やします。社会に「大阪に市音在り」をしっかりと示し、同時に楽員の士気を高めていきたい。一方で、子どもたち対象の合同音楽鑑賞会や吹奏楽指導、大阪城音楽堂での「たそがれコンサート」といった直営時代からの地域密着事業は続けます。経営は大変ですが、自立のための様々な挑戦を楽員一丸となって展開します。



大阪・南港ATCに新設された練習場での公開リハーサル=2014年4月3日

#### 「自主運営」の気風

ウチの気風の特徴に、「楽員による自主運営組織」が挙げられます。4月、音楽監督に就任してくださった作曲家で指揮者の宮川彬良さんに今も、

しばしば驚かれることがあります。リハーサル前後に楽員がパソコンで書類を作成したり、請求書を書いたり、電話で出演交渉したりしている。通常の、職業オーケストラでは「演奏する楽員」と「マネジメントする事務局」の役割分担が明確なケースが大半。でも市音は、新人も含め、全楽員が運営に直接、携わっています。自分たちの進路は自分たちで探る。そんな気風が音楽にも表れる。カリスマリーダーの下、楽員が粛々(しゅくしゅく)と演奏するというよりも、自分たち自身で意思疎通し合い、主体的に、自発的に、個性的表現を創る。それが市音の伝統なんです。リーダー・フォロワーの関係で動くよりも「パートナーシップ」で動いているオーケストラ。ですから私の役割も「調整役」。去年秋、梅田グランフロントで行った「フラッシュモブ」(通行人を装った楽員がいきなり合奏を始める、ハプニング的な演奏プロジェクト)はじめ、楽員の知恵で「活路」を拓いていきたい。また、若い事務局員にもバリバリ頑張ってもらいます。

#### 「吹奏楽ライブ」に

ザ・フェニックスホールはふだん、ピアノやヴァイオリンのリサイタル、弦楽四重奏や木管五重奏のコンサートが行われている「室内楽の殿堂」ですよね。今回、私たちはラテンの名曲「エル・クンパンチェロ」はじめ、吹奏楽のダイゴ味をお伝え出来るよう、プログラムを編みました。編成は40人ほど。打楽器も多く、フルトーンで奏できますから、随分にぎやかになるでしょう。いつものフェニックスの舞台とは違う、迫力あふれる「吹奏楽ライブ」だと思って大いに楽しんでいただきたい。お会いできるのを楽しみにしています。(談)



のぶはら・ひろあき 石川県出身。大阪音楽大学でクラリネットを学び、同大卒業後、フリーランス活動を経て1981年、大阪市音楽団入り。主任や副団長を経て2013年4月から団長。クラリネットについては「ソロも伴奏もオールマイティ。ジャズでも多用され、時には暴力的表現も可能」と話す。趣味はワイン。物腰も柔らかく、楽員らの信望は厚いが、団の転機に臨み「バンチ」の利いた手腕が期待される。兵庫県西宮市で奥様と2人暮らし。59歳。

「大阪市音楽団ファミリーコンサート」は2014年8月3日(日)午後2時開演。田中弘の指揮で、ドッド「ミッキー・マウス・マーチ」、アンダーソン「トランペット吹きの日」、エルナンデス「エル・クンパンチェロ」、真島俊夫コーラル・ブルー「沖繩民謡『谷茶前』」の主題による交響的印象など、吹奏楽のオリジナル作品の魅力をお伝えする。メンデルスゾーン「吹奏楽のための序曲 八長調 作品24」、ビゼー「歌劇『カルメン』から前奏曲、アラゴネーゼ、ハバネラ、闘牛士の歌」といったクラシックの名曲も。一般2,000円。学生1,000円。チケットやお問い合わせは、06-6363-7999ザ・フェニックスホールチケットセンター(土・日・祝を除く平日10時~17時)へ。※小学生以上よりご入場いただけます

## ザ・フェニックスホール友の会会員様限定~2014年度ティータムコンサート通し券特典 当選者発表!~

2014年2月28日までに、2014年度ティータムコンサートの通し券をお求め頂いた会員様の中から抽選で5組10名様に、本年度主催公演(ホール指定)のご招待状をプレゼントする限定特典の当選者は以下の方々です。5月30日はティータムコンサートシリーズ第1回目「ヴィクトール・ゴールドベルク ピアノリサイタル」を開催いたします。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

#### ■プレゼント当選者■

西宮市/大野様

箕面市/北出谷様

芦屋市/福井様

大阪市/高田様

神戸市/三吉様

### 聴いて育てる未来の名門~弦楽四重奏の教育・啓発事業



#### 今年も開かれる 京都・大阪・東京から4グループ

ザ・フェニックスホールは、弦楽四重奏に携わる若い演奏家の育成と併せて聴衆の拡大を図る教育啓発プログラム「Phoenix OSAQA (Open String Academy for Quartet Artists)」を、2014年も3月15日(土)から3日間、ザ・フェニックスホールとリハーサル室などを会場に開催しました。

### レポート Phoenix OSAQA 2014

ジャパン・ストリング・クワルテット(JSQ)が指導にあたり、指導を受けたのは、京都・大阪・東京から4グループ。演奏のコツや作品解釈について、じっくり学びました。

そして最終日17日(月)には、学習の成果を示す修了コンサートを行いました。今回来聴されたファンの数は3日間合計で約500人と昨年を大きく上回りました。

2015年もこの事業を、3月21日(土)から23日(月)の間で開催します。どうぞお楽しみに。

# 二人の師—音楽と出会い

—戸田弥生



Keizo Matsui

昨2013年、私はデビュー20周年を迎えました。歳月をふり返り、思いを深くします。そして「出会い」という最も大きな宝が、今日まで自分を引っ張ってきてくれたと強く感じています。

それは、恩師との出会い、異郷の地での友人との出会い、共演者との出会い、そして、すばらしい楽器達との出会いでした。様々な出会いを、太く強く、そして美しい一反の織物に例えたとしたら、一本一本の生糸がしっかりと丁寧に織られた過程のようです。私にとっては全てが、なくてはならない大切なものでした。今日はその中でも特に、最も大きな影響を受けた恩師のことを、お話し致します。

桐朋女子高等学校時代から約10年間、ヴァイオリンを教えていただいたのが、江藤俊哉先生です。先生のレッスンは毎回、毎回、それは厳しく、お褒めの言葉をいただいた事は一度もありませんでした。

オランダ留学の直前に受けた最後のレッスンを、今でもはっきり覚えています。江藤先生はその日だけは、ふだんのピアノの前ではなく、ご自身のお机の前の椅子に座られました。そして、じっと私を見つめられるのです。いつもとは異なる、強い緊張を感じました。

その時、たった一度何っただけでは、とても理解が出来ない、深遠なお話をされました。「作曲家はすさまじい想いを込め、作品を遺している。それに向き合えるだけの自分を築くことが、大切なのだよ」。私にとってそれは、一生の課題と思われる、正に精神論と言うべき内容でした。もうすっかり遠い日のことになりましたが、今日に至るまで何度も思い出されてきて、その度ごとに江藤先生のお気持ちを考えています。

そんなレッスンを経て留学したのが、アムステル

ダムのスウェーリンク音楽院でした。ここでの師は、ヘルマン・クレバース先生です。到着して1年足らずの1993年、私はエリーザベト王妃コンクールで優勝することになるのです。

クレバース先生は、江藤先生のように厳しく叱られることはありません。レッスンの雰囲気は、江藤先生とは対照的と言っても過言ではない、毎回、楽しくてたまらないものでした。ベートーヴェンのヴァイオリン協奏曲の指導を仰いだことがあります。この曲には、どんなに練習を積んでも、こちらを受け入れてくれないと感じさせられるような、厳しい音が連なっています。しかしクレバース先生の一言一音は逆に、演奏者の側が音楽に迫っていくような、そして同時に聴き手に語りかけて来るような、実に真摯なものでした。

江藤先生のあのレッスンの、忘れがたい特別な緊張感。そして、クレバース先生の非常に深く厳しい、音楽への本当の想い。その二つが、私の中で重なり合います。時にはそれらが、心に鋭く突き刺さるように感じられる事さえありました。

江藤先生が、最後のレッスンで私にお伝え下さったお言葉。またクレバース先生のベートーヴェン演奏から伝わって来た「本当のもの」「本物の音楽」と向き合う重さ。浮ついたようなものは何もなく、塗りたくられた化粧のようなウソも、決してあつてはいけません。真の自分が一体どこまで、「本物」に向かい合えるか。私の「生き方」までも深く問いかけてきます。音楽をすることの本当の意味は、何でしょう。

音楽家として成熟するこれからの時期、私を支えてくださった2人の恩師とその思いを、心の中の最も大切な部分で温め、そして膨らませていけるよう、更に精進しなくてはならない。今あらためて思っています。



©Akira Kinoshita

戸田弥生(とだ・やよい)/ヴァイオリン

1993年エリーザベト王妃国際音楽コンクールで優勝を飾り、ヨーロッパ各地で本格的な活動を開始。97年ニューヨーク・デビュー。録音も数多く、「パッサ:無伴奏ソナタ&バルティータ全曲」、珠玉の小品集「子供の夢」、「20世紀無伴奏ヴァイオリン作品集」などで好評を得ている。

公式ホームページ<http://yayoi-toda.com/>

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー5F TEL 06-6363-0211

Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2014年5月  
発行 あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール  
編集 吉元 晃  
デザイン 松井桂三有限会社

